

**第6次高浜市総合計画推進会議（第4回） 会議録**

<b>日 時</b>	平成23年12月12日（月）午後7時～8時30分		
<b>場 所</b>	高浜市役所 第2会議室（4階）	<b>傍聴人数</b>	15名
<b>出席者</b>	<b>委 員</b>	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	<b>事務局</b>	地域協働部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 (7名出席)	
<b>次 第</b>	1 会長あいさつ 2 議題 1) まちづくりシンポジウムの企画案について 2) 施策評価シートのイメージについて 3) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について ①第7回（12月19日）「総合計画を協働で実行しよう（2）」 ②第8回（2月）「事業アイデアの活用の方向性を共有しよう！」 ③第9回（3月）「計画の実行成果を発表しよう！&次へのアクション」 3 その他		
<b>資 料</b>	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第3回）会議録 資料2：まちづくりシンポジウム企画書（案） 資料3：高浜市行政評価システム基本方針 資料4：第6次高浜市総合計画 基本計画（前期）進行管理検証・評価シート（イメージ） 資料5：高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方（イメージ）		

## 1. 会長あいさつ

- ・第4回第6次高浜市総合計画推進会議を始めさせていただく。
- ・第3回の会議録については、委員の皆さんにご確認いただき、書面表決ということにさせていただいた。資料1として配布されているので、よろしくお願ひしたい。

## 2 議題

### 1) まちづくりシンポジウムの企画案について

事務局より、資料2「まちづくりシンポジウム企画書（案）」について説明。

- 会 長：
- ・第5回市民会議において、愛知学泉大学の伊藤雅春先生をゲストにお招きし、シンポジウムのテーマ、参加型に関するアイデア出しのワークショップを行い、様々な視点をいただいたと伺っている。
  - ・私が立木茂雄先生（同志社大学社会学部教授）をご紹介させていただいた。立木先生は、社会調査論の日本の権威であり、神戸市の地域力調査を5年間かけてやってきた。そこでの知見は、私も高浜市に導入させていただいている。
  - ・調査結果から、大人だけでなく、子どももまちづくりに関わっている地域は強い、事業者も関わっているともっと強いということが分かった。また、イベントが出来ているところは、きちんと仕事出来るし、引継ぎがきちんとできる地域、まちに愛着心・誇りを持っている人が多い地域、あいさつが通う地域はやはり強い。これらを全て「ソーシャルキャピタル」と言っている。分解すると、5つのパワーとして点数化できるということが証明された。立木先生とは、一緒に神戸市の地域活動推進委員会という審議会のメンバーをしている。
  - ・もう1人、大森彌先生は、私が務めている自治体学会の代表運営委員の6代か7代前の代表運営委員を務めており、私にとっては、先輩にあたる。高浜市のことをよくご存知だと聞いている。

—原案どおり承認—

### 2) 施策評価シートのイメージについて

事務局より、資料3「高浜市行政評価システム基本方針」、資料4「第6次高浜市総合計画 基本計画（前期）進行管理検証・評価シート（イメージ）」について説明。

#### 【質疑等】

- 委 員：
- ・分かりやすいシートで見やすい。
  - ・『5. 「みんなで目指すまちづくり指標」 「市民意識調査」 結果に対する現状分析』について、“現状分析”とあるが、“要因解析”や“課題の抽出”といった表現にさせていただくと、『7. これまでの主な取組みと成果』や『8. 課題と今後の取り組みの方向性』につながりやすいのではないか。
- 事務局：
- ・“現状分析（要因と課題等）”とする。

会 長： ・アクションプランの実効性や指標の妥当性も、まだ検証できる幅がある。指標は、絶対的に決まったと思わず、改善、改良していくものだとご理解いただいたら良い。やってみた結果、出来もしない指標だった、大変なコストをかけないと調査できないものだったということもあるかもしれない。その辺りは、現場のやりとりなどで考えていただきたい。

—一部修正し、承認—

### 3) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について

①第7回(12月19日)「総合計画を協働で実行しよう(2)」

②第8回(2月)「事業アイデアの活用の方向性を共有しよう！」

③第9回(3月)「計画の実行成果を発表しよう！&次へのアクション」

事務局より、資料5「高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方(イメージ)」について説明。

#### 【質疑等】

委 員： ・第8回市民会議で、行政の各GLが発表することになっている。事前に市民会議メンバーに発表内容を書面で配布すると思うが、私たちも、事前に目を通してくるため、それを読むだけの報告は要らない。

・第8回、第9回と進める中で、行政が1年間行ってきた内容のチェック・反省は、どういった形でお知らせいただけるのか。私たちの活動をふり返る予定はされているが、行政の1年間の活動に対してのチェックや反省、変化が不明確。

事務局： ・GLが活動の方向性を報告する際については、事前に、十分職員に説明し、想いが伝わるような説明をさせていただく。

・市民会議のふり返りについては、職員にも、会議を運営する立場、参加する立場、色々な目線がある。次へつなげるため、それぞれの意見を汲み取り、ふり返ることは必要。その結果は、推進会議でもお示ししたい。

委 員： ・第5回推進会議での各GLの報告が行政の1年間の活動の反省なのか。

事務局： ・第5回推進会議では、第3回推進会議でいただいた事業アイデアの提言について、どのような方向性で考えているか、来年度の事業にどのように反映していくのかといったことを、お答えさせていただく。第8回市民会議で、市民会議メンバーの皆さんにもお返ししていきたい。

委 員： ・今年1年、その前の1年、もっと前の第5次総合計画の反省が見えない。市民として日々の生活で感じることを、職員と話してきた。しかし、それは私たち市民の意見。高浜市として、取組みに対しての反省や、過去にやってきたことに対するチェック・改善が、第5次総合計画や日々の業務の中で、どういう風が変わってきたのか、ずっと見えてきていない。このまま、1年が終わり、2年目、3年目に入るのかという心配がある。

- 事務局： ・ 第5次総合計画の時には、指標がなかったため、実行したかどうかだけの判断しか出来ず、PDCA サイクルを回し、反省を生かすという仕組みではなかった。第6次総合計画では、市民の皆さんに、計画の策定から進行管理まで一緒にやっていただくということで、行政側にとっても大変な緊張感がある。また、市民目線のいろいろなアイデアをいただきながら、より良い施策につながっているとも感じている。
- ・ 市民会議を設けた理由は、「より望ましい事業展開が出来る」「行政活動に一定の緊張感を保つことが出来る」「市民と行政がまちづくりのパートナーという意識が高まり、信頼関係が出来る」という中で、市民の皆さんにまちづくりに興味を持っていただき、地域活動に参加する人が増えてほしいという想いで立ち上げている。この目的が達成できるよう、厳しいご意見などを賜りながら、行政側も市民会議の前には、必ず、職員の説明会等を行い、フォローしている。
- 委員： ・ 平成16年に構造改革として、大森彌先生に中心となっていただき、報告書をまとめていただいた。その中に「財政力」「職員力」「住民力」という3つのキーワードがあり、これがずっと続いてきている。現在、第5次総合計画とあいまって進んでいる部分と、その反省を踏まえて進んでいる部分とある。職員には、気の入った報告が出来るように言っていきたい。また、委員さんからの厳しいご示唆をいただけることが、職員力の向上につながると思っているので、よろしくお願ひしたい。

### 3 その他

- 委員： ・ 市民意識調査の定点観測は、定番で実施しなければ意味がないと思うが、具体的な対象基準などはどうなっているか。
- 事務局： ・ 平成24年4月～5月頃実施予定。第6次総合計画策定時に行った意識調査と同じく、満18歳以上を対象に2,500名を無作為抽出し、子どもに関する指標については、小学校3年生～中学校3年生全員を対象とする。
- 委員： ・ 調査にかかるコストはどのくらいなのか。
- 会長： ・ 対象サンプル数はどのくらいなのか。
- 事務局： ・ 6,000人程度。発送の実費、分析、製本を含め、約200万円強。
- 委員： ・ 今は、決めたことを良いと思って進んでいるが、2011年度の結果が出ると、各分科会で行っている活動の軌道修正が出るかと思う。結果が出来るだけ早く出ると良いと思うが、いつ頃結果が出る予定か。
- 事務局： ・ 4月～5月に調査を実施し、5月中に結果をとりまとめたい。推進会議や市民会議にお返しするのは、6月以降になるかと思う。上半期の間に、どのように見直すかなどの分析、話し合いをじっくり出来るように、なるべくスピードを持って進めていきたい。
- 委員： ・ 分科会全体の進め方について。来年度は、ワークショップなどのスキル

アップと、分科会で深く掘り下げて話をするものを明確に分け、年間何回くらい実施する予定で、どういったことを、どういった方向で、どういった結論に持っていきたいのかという、進め方の目安をはっきりしてほしい。特に、今年の教育・子ども分科会は、教育基本構想など盛りだくさんだったため、大変だった。

- 委員：・施策評価シートの『4. 市民意識調査結果』の設問は、アクションプランの目標を疑問形にただけだが、どうやって答えられるか疑問。もう少し具体的に、分かりやすい設問に出来ないか。PDCA サイクルを回すと言っている、次のアクションにつなげるために大事なものはチェック。
- 委員：・現在の設問だと、「市民と行政が信頼関係を深めているか」「市民と行政がともにまちづくりを行っているか」という2つのことを言っているが、このように2つの内容を入れないようにした方がよい。
- 委員：・お手元にアンケート用紙と啓発用のティッシュをお配りした。分科会で「農業まつり」と「よしはま・ふれあいフェスタ」で、コミュニティ・ビジネスに関する意識調査を実施した。今後も、市内でイベントがあれば、出向く予定。アンケート結果については、とりまとめ、コミュニティ・ビジネスを立ち上げることへの1つのヒントとなるようにしたい。
- 委員：・施策評価シートの『3. みんなで目指すまちづくり指標—目標達成状況—』にある、「地域活動に参加している職員の割合」の目標値 60%は、他の自治体のレベルと比べ、どの程度なのか。行政主催の活動にいろいろ参加しているが、参加率は、一桁くらいで十分な程度に感じる。
- ・また、60%というのは、延べ人数なのか、参加者数なのか。目標ということで、いろいろな活動全てに出ているは、職員に大きな負担がかかるし、頭数だけそろえて60%となっても良くない。自然な意識づくりをどのようにしていくかだと思う。
- 事務局：・目標値の設定については、第6次総合計画の期間11年間で100%にしようという発想で、直線回帰法で求め、毎年5%アップという考え方。
- ・職員の割合の定義については、例えば、職員が100人いるとすると、その内60人が、1年間の中で地域活動に参加したことがある場合は、60%となり、延べ人数・回数ではない。
- ・自治基本条例では、市民・議会・行政が、それぞれ一緒になってまちづくりを行おうという趣旨となっているため、無理に参加するのではなく、そういった意識を持った職員になるということが目的。意識付けについては、今、試行錯誤しながら進めている。
- 会長：・60%というのは、とても高いと思う。しかし、高浜市の職員であれば出来ると思う。
- 委員：・高浜市内の町内会の加入率は平均約65%。その65%の中の何%かがいろいろな活動に参加している。問題なのは、町内会に入っていない方を、

- いかに取り込むかということ。こうしたことを、検討していただきたい。
- 委員：・町内会の加入率はだんだん下がっている。行政では積極的に加入を進めることは出来ても、強制力はないため、なかなか難しい。何かメリットをつくって、それを説明していただきたい。
- ・市民意識調査の方法はどのような方法で行われるのか。
- 事務局：・満 18 歳以上の方については、郵送で調査票を送り、郵送で返していただく。無作為抽出で 2,500 名を対象とし、無記名。小中学生については、学校を通じ配布、回収する。
- 委員：・「地域活動に参加している職員の割合」について、特定の職員は、いろいろな地域の活動で見られる。この割合は、全職員を対象とした割合なのか。それとも、分析をかけるときのように、特定の職員を抽出するのか。
- 事務局：・保育士を含めた全職員を対象としている。
- 委員：・社会福祉協議会主催の「いきいきフェスティバル」で、NEW ボランティア人に関するアンケートを行った。年齢層も幅広く、多くの方にご協力いただけた。結果が間に合わず、今日のご報告できないが、今後の活動の広げ方や人材育成に関わるような内容につなげていきたい。第 7 回の市民会議の際に、報告させていただきたいと思っている。
- 委員：・健康分科会の進捗状況について、報告させていただく。健康マイレージには、現在 595 名の方に登録いただいている。高浜市内の 65 歳以上の人口は、約 7,800 人。その 10%である 780 人の登録を 1 年で増やしたい。健康マイレージは、まだまだ浸透していない。青パト、道路清掃などに参加してもポイントがもらえることを示すことも必要。マイレージは、健康と福祉ボランティアの 2 種類あるが、福祉ボランティアは高齢者を介護することといった誤解もあり、説明が必要。市民の方に分かりやすくお知らせしていきたい。
- 委員：・まちづくりシンポジウムは、まちづくりに参画する意識を持った市民を 1 人でも増やすことが目的。どのように少しでも多くの人に会場に来てもらい、意識を持ってもらうかという部分が、今の企画案では、難しいのではないかと思う。ぜひ、各分科会で、その点についても示唆いただけるとありがたい。成功させたいと思うので、よろしく願いたい。
- 委員：・お手元にごみ分別便利帳をお配りした。これは、今年環境・憩いの場分科会の実行テーマの 1 つ。第 5 次総合計画がスタートしてから、3 回目の改訂となる。ごみの減量と再資源化の効果が上がるよう、これまで分科会で、126 ある拠点の状況をチェックしたり、困りごと相談に乗ったり、調査をしてきた。拠点を回られている市長や議員にも相談し、作成してきた。年内に各家庭に全て配布される予定。本日は、どんな気配りをして改訂をしてきたかの概略を付けている。市民の皆さんのご協力により、着実に成果が出ていることが分かる実績も載せている。

- 会 長：
- ・自治会の加入率増加に対するアイデア集のようなものを、兵庫県で作成したことがあるため、一部ご披露させていただきたい。
  - ・自治会で行った子ども会の行事に参加した、自治会に加入していない世帯の子どもに、お土産用に用意したお菓子袋を渡すか渡さないかで、役員がかなり悩んだ。会員でない子どもにお菓子袋を渡せば、自治会の経費の無駄遣いではないかとお叱りを受けるかもしれない。これに対し、私は、子どもをだしにして、「自治会に加入しましょう」というメッセージを添えて、お菓子袋を渡すべきだとお伝えした。縄張り意識が、壁があると思われる原因になる。お菓子袋を渡すことで、優しい町内会、子どもに一生懸命な町内会というメッセージが伝わるのではないか。
  - ・もう1つの例として、どんどん分譲マンションが建っている地域がある。そのマンションの住人が、全然自治会に入らないため、かつて約90%を誇っていた加入率が、50%を切りつつある。どうしたらいいか。地域防災計画（地域と行政との役割分担）というものがあるが、マンションの方は自主防災計画を作らない限り、行政は助けられないということを通告すべきだとお伝えした。平日頃からの訓練にあたり、どこに避難するのかといった話も、地元の自治会と協議するようと、現実をお話していけば、マンションの方も地元の自治会と協議しないといけないと思うだろうとお話したら、実行に移された。結果、加入率が上昇した。また、マンションの建設前に、発注業者等に、地元の自治会に入ることを条件として販売するように協議を申し入れ、交渉することも方法の1つ。
  - ・行政が後押しをしてくれたら、自治会の加入率が上がると思いがちだが、これには限界がある。広報紙の配布を、自治会を通じて、自治会加入者のみに配布し、未加入者は近くの施設に取りに行ってもらおうというやり方もある。これは、住民を差別しているということで、訴訟沙汰になるリスクもある。悪い方法ではないが、だんだん苦しくなる。
  - ・まちづくり協議会の活動を通して、自治会未加入の方に、重点的に声かけをし、「地域で支えてくれるのは、地域の自治会の班である」といったメッセージを介して、加入を促すという運動を起こすと良い。加入率を上げるというのは、結局は、“地域の力”。

- ・議事録の内容については、書面表決とする。

#### 今後の日程

- 第7回市民会議 12月19日（月）午後7時～
- 第8回市民会議 2月2日（木）午後7時～
- 第5回推進会議 1月26日（木）午後7時～
- 第6回推進会議 3月19日（月）午後7時～